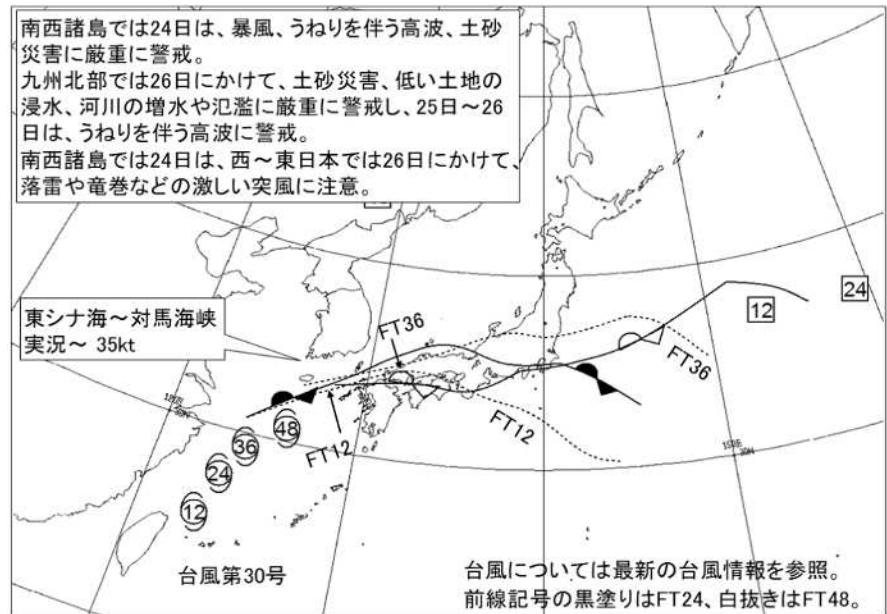


1. 実況上の着目点

- ① 前線が東シナ海～西日本～日本の東へのびている。前線付近の西日本では激しい雨を解析。
- ② 大型で強い台風第30号が、先島諸島近海を北上。暴風域内の先島諸島では、非常に強い風が吹いて猛烈なしけとなっている。台風周辺やその外側の雲バンドで、激しい雨を解析し、発雷を検知。
- ③ 日本の東を上層のリッジに対応する優勢な高気圧が東へ移動。高気圧の縁や①の前線付近では気圧の傾きが大きく、強い風が吹いて波の高い所がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の前線は、500hPa 5820m付近のトラフの接近に伴って24日夜にかけて西日本の日本海側から東日本に北上し、25日には東日本から南下に転じて、26日夜には西～東日本の太平洋側にのびる。1項②の台風第30号は今後勢力を弱めながら、東シナ海を北上して次第に東へ向きを変え、26日には西日本に接近するおそれがあり、26日夜までに前線上の低気圧となる見込み。前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、活動が活発となる。対馬海峡付近では、前線が長い間停滞することに留意。前線や台風周辺の発達した対流雲の影響で、激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。沖縄地方では24日は、土砂災害に厳重に警戒。九州北部では26日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に厳重に警戒。西～東日本では26日にかけて、大雨災害に注意・警戒。西～東日本では26日にかけて、南西諸島では24日は、落雷や竜巻などの激しい突風に注意。沖縄地方では24日明け方にかけて、線状降水帯が発生して大雨災害の危険度が急激に高まる可能性がある。
- ② 2項①の台風に近い南西諸島では24日は、猛烈な風が吹いて、猛烈なしけとなる所がある。また、1項③の高気圧の周辺部では、2項①の前線との間で気圧の傾きの大きい状態が続くため、北日本と東～西日本の太平洋側ではやや強い～強い風が吹き、うねりを伴い波が高くなる。その後も26日にかけて、前線や台風及び台風から変わった低気圧の影響で強風や高波が広い範囲で続く。沖縄地方では24日は、暴風やうねりを伴う高波に厳重に警戒。奄美地方では24日は、九州北部では25～26日は、うねりを伴う高波に警戒。全国的に26日にかけて、強風やうねりを伴う高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項〔量的予報等〕①雨量(06時から24時間)：九州北部300、沖縄150、東海・中国120、伊豆諸島・北陸100mm。②波浪(明日まで)：沖縄11、九州北部・奄美6、九州南部5、四国4、その他広い範囲で3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無 「台風第30号」を5時頃に発表予定。